

今できること
プロジェクト

2022-2023

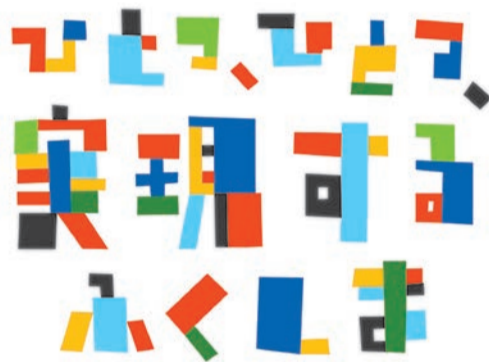
再生と伝承



参加者
募集

賛同企業の皆さんと
福島を訪ねる

1.「東日本大震災・原子力災害伝承館」の展示物一例 2.福島水素エネルギー研究フィールド、無人航空機用400メートル滑走路などが38.5ヘクタールの広大な敷地に広がる 3.例年11月上旬に始まる捕獲したサケの採卵作業 4.バリケードで家屋が封鎖されている浪江町大塚地区の帰還困難区域 5.母川回帰するサケをかたどった請戸漁港にある大塚相馬焼のモニュメント「帰還」



故郷の未来を取り戻し、真の再生をたどるために。

福島県南相馬市、浪江町、双葉町など相双地域は、原発事故による長期の住民避難が復旧・復興の足かせとなり、ハード面の復旧整備が進んだ岩手・宮城とは異なる様相を今も示しています。一方で、次代を担う新産業集積を目指す国家プロジェクト「福島イノベーション・コースト構想」が始動し、その司令塔となる「福島国際研究教育機構」の浪江町への誘致が決定しています。本ツアーでは、今できることプロジェクト賛同企業からの希望者と一般参加者を募り、真の復興を目指す相双地域の各地を視察。漁の再開に尽力した請戸漁港の関係者にも詳しくお話を聞き、地域の誇りと展望に触れます。

南相馬市 真野川鮭増殖組合 ふ化場見学【賛同社・一般参加者】

福島県浜通りを流れる請戸川や真野川など10河川では、サケの人工ふ化事業が明治以降行われてきました。震災発生の前年、全国5番目の捕獲数だったサケ漁が東京電力福島第一原発事故により存続の危機に直面。南相馬市鹿島区で60人の組合員が所属する真野川鮭増殖組合では、増殖技術を絶やさないため、震災が発生した2011年以降も毎年秋に採卵を行い、放流事業を継続してきました。週上数の減少と組合員の高齢化に直面するなか、今年3月に発生した震度5強の地震でふ化場が大きな被害を受けました。水温15度を下回り、サケが母川回帰を始める漁期に間に合うよう復旧した真野川のふ化場を視察します。



▲南相馬市真野川鮭増殖組合のふ化場

福島イノベーション・コースト構想 講話と視察【賛同社】

未来を切り拓く新たな産業基盤を浜通り地域に集積する国家プロジェクトが「福島イノベーション・コースト構想」です。(公財)福島イノベーション・コースト構想推進機構の担当者に構想の概要を聞くほか、関連施設を視察します。

集う、創る、つなげる、あきらめず。



福島イノベ機構

<https://www.fipo.or.jp/>

双葉町「東日本大震災・原子力災害伝承館」見学【一般参加者】

双葉町は福島県内の自治体で最後まで全町避難が続いていました。8月末の一部避難指示解除で11年半ぶりに住民の帰還が始まっています。2020年に開館した東日本大震災・原子力災害伝承館を見学し、地震や津波、収束が見通せない原発事故について、展示や記録映像を通して理解を深めます。



▲東日本大震災・原子力災害伝承館

<https://www.fipo.or.jp/lore/>

浪江町 請戸漁港 訪問【賛同社・一般参加者】

津波で壊滅した浪江町請戸(うけど)漁港は、2021年3月に港湾施設が復旧。災害危険区域となった地を離れた住民は、7km南にある福島第一原発が引き起こした重大事故により、長期の避難生活を強いられました。質の高さから市場関係者から評価が高い海産物「常磐もの」でも、とりわけ一目置かれる「請戸もの」ブランド復活のため、請戸の漁業者は南相馬市など近隣の避難先から通い漁を続けています。相馬双葉漁業協同組合請戸支所と浪江町役場ご協力のもと、被災から避難生活を経て食の安全性を確保しながら漁の再開に至った歩みと今後の展望を伺います。



▲請戸漁港の荷さばき施設

募集要項

福島県「相双地域視察ツアー」 参加者募集!

旅行期日 2022年 11月9日(水) 日帰り 旅行代金 1名につき 2,000円(税込)
※大人・子ども同額。※3歳以下無料。

- 募集人員 / 40名様(最少催行人員20名様)
- 食事条件 / 朝0回、昼1回、夕0回
- 集合時間・場所 / 7:45・仙台駅(東口バスプール)
- 服装 / 動きやすく汚れてもいい服装
- 持ち物 / 運動靴、雨具
- 添乗員 / 仙台駅より全行程同行します
- 利用貸切バス会社名: みちのく観光
- 行程 ※交通記入例 / 貸切バス〜 徒歩…

8:00 仙台駅東口より出発(貸切バス)〜9:45 南相馬市・真野川鮭増殖組合を見学

以下11:15から14:30までは ①賛同企業 ②一般参加者の2班に分かれて視察

① 11:15 浪江町「道の駅なみえ」福島イノベーション・コースト構想講話〜

12:00 昼食・買い物〜13:00 浪江町「棚塩産業団地」視察

② 11:30 双葉町「東日本大震災・原子力災害伝承館」見学〜13:00 浪江町「道の駅なみえ」昼食・買い物

14:30 浪江町・請戸漁港を視察〜15:30 浪江町・帰宅困難区域を視察〜18:00 仙台駅東口到着解散

参加条件

- ①「今できることプロジェクト」の趣旨に賛同し、活動についての理解をより深めたいと考えている方。
 - ②当日配布するアンケートに記入いただけること。
 - ③当日撮影する写真と映像が、新聞および特設HP・facebookに掲載される場合があることをご了承いただける方。
- ※高齢の方、もしくは持病(重度のぜんそくなど)や障害がある方は、活動時や災害発生時の安全確保の観点から、主催者の判断で参加をお断りする場合があります。あらかじめご了承ください。

応募締切 / 10月21日(金)

※応募者多数の場合は抽選となり、お申込みサイト(たびと)上で当落発表を「2022年10月25日(火)〜2022年10月30日(日)」の期間で発表いたします。結果をご確認の上、ご当選された方は期日までにお申込みサイト(たびと)にてお申込みページへ移動し、購入手続きを進めていただきます。申込金のご入金確認でき次第、正式に「お申込み完了」とさせていただきます。2022年11月4日(金)までに「最終旅行案内」をご登録頂いたメールアドレス宛にお送りさせていただきます。※申し込みにあたりご提供いただいた個人情報、お客さまとの連絡のほか、当プロジェクト推進のために当プロジェクトを主催する河北新報社へ提供いたします。

参加ご希望の方は

二次元コードからのお申し込み→二次元コードからアクセスいただき、JTBお申し込みサイト(たびと)よりお申し込みください。

ご旅行内容に関するお問い合わせ

旅行企画・実施(株)JTB仙台支店 観光庁長官登録旅行業第64号(一社)日本旅行業協会正会員
〒980-8520 宮城県仙台市青葉区一番町3丁目7-23 明治安田生命仙台一番町ビル3階
TEL 022-263-6712(平日9:30〜17:30) FAX 022-263-6693
総合旅行業務取扱管理者: 田澤 康輝 担当: 石澤 朋久



私たち賛同企業も、再生と伝承のために「今できること」をともに考え、このプロジェクトに賛同し、推進していきます。

IHI/アサヒビール 東北統括本部/石巻市震災遺構門脇小学校・大川小学校/岩手日日新聞社/NTTデータ東北/オリックス 仙台支店/キンピール 東北統括本部/ケーズデンキグループ・デンコードー/劇団四季 光輝ビルテクノス/サッポロビール/サントリー 東北営業本部/JTB 仙台支店/住友不動産 東北事業所/生命保険協会 宮城県協会/大和証券 仙台支店/DICグラフィックス/伝承千年の宿 佐勤/東伸環境 NISHIKIYA KITCHEN/日本製紙/日本製紙クレシア/日本損害保険協会/野村不動産 仙台支店/東日本油化工業/平松剛法律事務所/藤崎/富士フィルムグローバルグラフィックシステムズ/みちのく企業グループ 三井不動産/三菱地所グループ/三菱重工機械システム/宮城県建設業協会/宮城県自動車整備振興会/明治安田生命 仙台支社/リコージャパン 宮城支社/Rethink PROJECT/河北新報社(順不同)
◎後援/宮城県、福島県、仙台市、石巻市、気仙沼市、多賀城市、名取市、東松島市、南相馬市、亘理町、女川町、浪江町、双葉町、宮城県市長会、宮城県町村会、宮城県教育委員会、仙台市教育委員会

【お問い合わせ】今できることプロジェクト事務局(河北新報社営業部) tel 022-211-1318

これまでの活動内容や新着情報は「今できることプロジェクト」特設HPをご覧ください。

www.kahoku.co.jp/imadeki/

河北 今できること

検索

facebookページもあります。

福島県「相双地域視察ツアー」参加者募集!

福島県「相双地域視察ツアー」参加者募集!